様式第３号

会　　議　　録

<table>
<tr><td>会　議　の　名　称</td><td colspan="2">令和５年度　第１回朝霞第三中学校学校運営協議会</td></tr>
<tr><td>開　催　日　時</td><td colspan="2">令和５年５月２日（火）
午前１０時４０分から午後０時１０分まで</td></tr>
<tr><td>開　催　場　所</td><td colspan="2">朝霞市朝霞第三中学校　校長室</td></tr>
<tr><td>出　席　者</td><td colspan="2">・渡辺　聡　・白鳥　成章　・關野　武男　・正野　寛樹
・金子　雅美　・嶋　　徹（司会：横瀬修克　記録：石井祐輔）</td></tr>
<tr><td>会　議　内　容</td><td colspan="2">（１）令和５年度　学校経営の構想について
（２）令和５年度　学校経営の方針について
（３）令和５年度　朝霞市立朝霞第三中学校グランドデザインについて
（４）令和５年度　学校長による自己評価シートについて
（５）その他</td></tr>
<tr><td>会　議　資　料</td><td colspan="2">（１）令和５年度　学校経営方針
（２）令和５年度　朝霞市立朝霞第三中学校グランドデザイン
（３）令和５年度　自己評価シート（学校長）</td></tr>
<tr><td rowspan="6">会　議　録　の
作　成　方　針</td><td colspan="2">□電磁的記録から文書に書き起こした全文記録</td></tr>
<tr><td colspan="2">□電磁的記録から文書に書き起こした要点記録</td></tr>
<tr><td colspan="2">☑要点記録</td></tr>
<tr><td colspan="2">□電磁的記録での保管（保存年限　　年）</td></tr>
<tr><td>電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間</td><td>□会議録の確認後消去
□会議録の確認後〇か月</td></tr>
<tr><td colspan="2">会議録の確認方法　司会・記録による確認</td></tr>
<tr><td>そ　の　他　の
必　要　事　項</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）
１　開会の言葉　開始　午前１０時４０分 教頭： 令和５年度第１回朝霞第三中学校学校運営協議会は朝霞市学校運営協議会規則第１０条第２項に則り委員の過半数が出席しているため本協議会が成立していることを申し添えさせていただきます。 傍聴者はおりません。 ２　学校長あいさつ 校長： 前任校でも２年間やってきたが、国が掲げる地域と共にある学校には及ばないまま終わってしまった。アフターコロナの中で、三中らしさを生かしながら、皆さんの意見をもとに、生徒の健やかな学びにつなげていきたい。 ３　任命状交付 校長：委員の皆さんの机上にお配りさせていただいております。 ここでは、代表として、白鳥さんへの交付を行います。 ４　自己紹介 教頭：多様、狩野様が欠席。 委員 A：昨日 PTA 総会も無事に終わり、６年目となり、今年度が最終年度となる。 委員 B：３０年以上企業にいた。その後、公務員として朝霞市に務めた。町作りのための人作りをやっていきたい。 委員 C：朝霞六小の PTA 会長。自身も卒業生である。 委員 D：弁護士です。校長先生とは、五小以来の付き合いとなる。他の中学校と比べると三中は良い感じである。 委員 E：主人と娘が三中の卒業生。保育園の園長。母親目線で本協議に参加していきたい。 校長： 校長として、市内小学校、中学校、小学校を経て、本校に着任した。遠慮なく、三中の課題をご指摘いただきたい。ご指摘いただいた意見は、尊重し、学校経営に生かしていきたい。 教頭： 校内巡回。 協議　　進行　委員長 校長： 学校経営方針説明。日本の教育改革が急速に進んでいて、令和の日本型学校教育として、個別最適な学び、協同的な学びが求められている。これらの実現のためには、GIGA スクール構想で配布したタブレットをどれだけ有効に使えるか、教員個々の力が求められている。今年度の校内研修でも力を入れて行っていく。学力をつけるのは１番だが、学習塾でもできる部分ではある。学校で求めて行くには、授業や普段の生徒との接し方を含めて、粘り強く頑張り抜ける

逞しい心身の育成である。授業では、楽しい授業、わかる、できるを大切にし、行っていく。学校特有の刺激のある授業を展開していきたい。教員にはそういった工夫を求めている。今年度の重点目標について、校内巡回でも空席が目立ったと思うが、不登校生徒が多いことが本校の大きな課題。教育相談部会でも、生徒にあわせたフォローを通して前進を図る。また、学校の実情、課題を受け、自己評価シートを作成した。１．組織的・協同的な集団作りをキーワードにしている。報・連・相を密に取るように行う。企画委員会、生徒指導部会、教育相談部会を週一度、実施し、組織的な運営を心がける。２．保護者・地域から信頼される学校作りを行う。コロナによる制限を解除する。３．施設整備等の管理。ケガ等につながらないように安全面に気を付ける。予算を計画的に用いて運営を行う。４．時数の確保は確実に行う。ICT 機器をフル活用して行う。５．課題の一つ目、若い教員が多く、経験不足、判断が甘い教員が多い。課題の二つ目、臨時的任用の教員が多い。１年での入れ替わりが激しいため、中長期的な見通しを持った運営を課題と認識しているので、人材育成に努める。

委員 B：

授業を大切にすることは大事。タブレットのどういったコンテンツの使い方をしていくかが重要。せっかく教育に強い、アップル社を用いている訳だから、コンテンツやアプリを用いた研修をすすめていってはどうか。

校長：

有用なアプリは教育委員会に依頼して、どんどん入れている。

委員 D：個別最適な学びが求められているが、昨年度の自分の子の成績のグラフを見ると、数学は個人差が特に激しい教科である。成績は２極化してしまっている。この改善のため、タブレット等を習熟度別の授業の展開をしてほしい。また、昨年度の会計監査をしていたが、先生方がかなり複雑な会計の管理をしているが、先生の業務ではない。このような雑務に先生方の時間がとられてしまっているので、なんとか工夫して、まずは授業に力をいれてほしい。

校長：習熟度別の授業を展開していくためには、教員の定数のことも絡んでしまうので、なかなか実現は難しい。タブレットのソフトを用いて、個人で遡って授業をしていくことはできる。部活動にとられる時間が多い。６時までは部活動についていて、職員室はガランとしている。そこから授業準備をするため、７時を簡単に超えてしまう現状である。部活動を外部に委託していきたいが、なかなか難しい。

委員 D：活動量を減らすわけにはいかないか。

校長：部活をやりたい子もおり、なかなかバランスを取るのは難しい。

委員 D：生徒はよく見ている。先生はブラックな仕事だ。と認識している。これの改善が急務だと思う。子どもたちの憧れにつながらない。なりたい職業にもならないことがもったいない。

委員 B：中央公民館でワークショップがあったが、教員の負荷を減らすことが学校運営協議会の役割ではないはず。文科省の調査を見ると、過去最大数の休職者数が多い。授業に集中できるように教員の業務がどこまでと明確にしていかないといけない。地域への働きかけ方も大切である。

委員 A：学校運営協議会の在り方とは、砂漠に井戸を掘ることが目的ではなく、井戸の掘り方を説明したりするのが学校運営協議会の在り方である。埼玉県には、応援団など保護者の会など多くの方が学校の支援に携わってくれていた。学力の差については、できる生徒とできない生徒の差が激しいので、平均点をあげるだけはなく、できない子達の底上げに力を入れていって欲しい。評価をするためのテストになってしまっている。

校長：PDCA サイクル。評価のためのテストになっているのは確か。それをどう

分析して使っていかなければいけないかが課題である。
委員D：都内はICTを活用している。できる生徒には、過去問を出しておいて個人で取り組ませる。できない生徒に先生がついて、フォローする形の授業を行っている。
委員B：タブレット端末の使い方について、個別の学習ができる運営をしていくと、教員の準備の時間が足りない。
委員C：学力の向上。勉強が嫌だから不登校になるのか、不登校だから勉強ができない。いろいろな状況がある。そういった生徒に先生方が関わると、先生の業務が必然と増えてしまう。予算を確保して、人数を増やしていかないと授業準備に費やす時間が足りなくなる。理想と現実の見極めをしっかりとしていただいた方が、先生方の働き方改革につながらない。
校長：教員は全体的に受け入れてしまう。文科省からも棲み分けがでているが、地域や保護者を含め、なかなか受け入れられていない。
委員B：若い頃には苦労をした方が良い。というのはどうか。
校長：なんでもかんでも引き受けてしまうこととは違う。色々な経験は積んだ方がよいのは当たり前だが、若い教員が働きがいややりがいをしっかりともって働いていくのかの視点が大切である。
委員A：全体で意見を出し、校長のビジョンを補強したかたちになった。学校経営の提案について承認ということでよろしいか。全員一致。
その他
委員B：教員の負担が大きな問題である。教育委員会ともしっかりと連携すべき。保護者や地域の方に学校の実情を理解いただければ、業務を削減できる。そこで、例えばFMラジオで山村国際高校の生徒が学校の内面を紹介している。地域の方に実情を知ってもらうために、三中でも活用してみてはいかが。
委員C：２年生総合で行っている学校農園だが、２年生が一時的に活動しているだけで、雑草等が伸びた状態になっている。学年によっても、やる年とやらない年の差が激しいので、委員会や部活動などの特定の箇所に任せて、毎年の活動にすることで責任をもってやらせて見てはいかがか。
委員E：雑草抜きも含めて、毎日畑に入ってあげないとだめである。
委員B：生徒がやらなければならないのか。市の外部団体に委託することはできる。
委員A：生徒がやることに意味がある。
委員E：景観にこだわるなら、他団体に任せてもよい。
委員B：学校の教育上、全てをやらないと意味がないとは思うが。
委員E：何をどこまではやっていくか、という線引きは先生だけでなく、生徒にも必要である。
校長：年度末に総合の年間計画の見直しをしたいと要望があがったので、しっかりと計画的に運営していきたい。様々なことに関して、学校運営協議会の場で熟議をしていただいたことに感謝を申し上げます。

次回の学校運営協議会の日程確認
令和５年７月１１日（火）１０：４０～　校長室

５　閉会の言葉
終了　午後０時１０分